

主に夏休みにあった進路に関する様々な取り組みや情報を伝えします。

2学期の進路関係の行事予定

月	高等部	中学部	幼小学校部
11月	・就業体験（高1-2, 1-3, 2-2, 3-2, 3-3）		
☆ 先輩に学ぶ（中高生徒、全保護者対象）			
・進路希望調査、保護者懇談会（進路相談）		・保護者懇談会	
1月	・就業体験（高3-2, 3-3 必要に応じて）		
2月	・移行支援連絡会（高3）	・願書提出（中3）	
3月	・高校生就職ガイダンス（労働局 高2）	・入学検査（中3）	

☆ 保護者の方が参加できる行事です。ぜひご参加ください。



高等部 就業体験



夏休みに、高等部1-1, 2-1, 3-2の生徒6名が、県内の企業で就業体験を行いました。保護者の皆様には、体験の準備をはじめ、毎日の日誌の記入等ありがとうございました。ご協力いただいた事業所と生徒たちの評価を紹介します。

評価については、今後の指導に生かしていくたいと思います。

★ご協力いただいた企業★（50音順）

一般事業所	福祉サービス事業所
<p><富山市></p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社富山村田製作所 ・株式会社不二越 ・社会福祉法人 光風会 ・ダイト株式会社 ・リードケミカル株式会社 	<p><富山市></p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労継続支援 A型事業所 Self-A ハニービー環水公園前

●事業所からの評価を紹介します。

- ・挨拶はとても元気がよく周囲に良い影響を与えていた。（一般）
- ・事務作業は細かく間違い易い作業ですが、質問しながら集中して正確にできていた。
- ・真面目に指示どおりの仕事はできるが、挨拶やコミュニケーションが不足気味だった。
- ・困ったときに動けない場面がみられた。筆談やジェスチャーがもう少し増えていくとよい。



＜生徒の振り返り＞

- ・体調が悪かったり、作業内容を確認しなかったりするとミスが増えた。体調管理や報告・連絡・相談の大切さを学んだ。
- ・体験を通して丁寧に作業をすることの大切さと働くことの大変さを学んだ。今後も、丁寧に作業することを意識していきたい。
- ・作業の仕方を丁寧に教えていただいたことや言葉を掛けていただいたことで安心して体験することができた。これからの学校生活でも、教えていただいたことを確実に行いたい。

第1回 キャリア教育・就労支援委員会

7月22日（火）に、富山公共職業安定所職業相談第三部門 主任就職促進指導官 菅和 千景様、富山障害者就業・生活支援センター 就業支援ワーカー 東 千晶様を外部講師としてお招きし、令和7年第1回キャリア教育・就労支援委員会を開催しました。貴重なお話を多く聞くことができ、とてもよい機会になりました。

その内容を一部紹介させていただきます。

(学校)	卒業後、ハローワークをどのように利用する場合がありますか。
(外部委員)	「仕事を長く続けるために必要なコミュニケーション」「感情のコントロール」等をテーマにした研修会に参加していただけます。研修会は1年に3~4回実施しています。
	高等部卒業後は、働くことや施設を利用するなどの生活設計が必要であり、早い段階から将来を見据えた支援や情報提供を受けられるよう学校やハローワーク等と連携していくことが大切です。
(学校)	小学部や中学部のときに身に付けたらよい力はどんな力ですか。
(外部委員)	決まった時間に起き、決まった時間に活動するなど、生活リズムを確立することです。また、「聞き間違いがあるかもしれないで、補助機器を使わせてください」と伝えるなど自分の困りごとを伝える力を身に付けることは大切です。
(学校)	社会人として働いている方の役に立っているものがあれば教えてください。
(外部委員)	声をうまく出せない、伝わりにくい方が、コミュニケーションカード等代替手段を活用し、意思を伝えられる事例を聞くこともあります。

第2回、キャリア教育・就労支援委員会を1月に予定しています。



企業向けオープンスクール



9月19日、「特別支援学校就労応援団とやま」登録企業に高等部生徒の授業を見学していただきました。後半では、朝日印刷ビジネスサポート株式会社の渡辺正様をお招きし、「就職に向けて身に付けておきたいこと」についてご講話いただきました。挨拶や返事をしっかり行うこと、掃除を丁寧に行うこと、就職したいという強い気持ちをもって就業体験に参加すること、そして働くことの大切さについて教えていただきました。

また、多くの企業の皆様にもご参加いただきました。誠にありがとうございました。



進路ワード

「合理的配慮②」

聴覚障害のある人への合理的配慮

「合理的配慮」とは、生活や学習の中で困っていることに対して、その人に合ったサポートや工夫をすることです。手話でコミュニケーションができる環境が整った一般企業は少ないため、通常業務では筆談でのコミュニケーションか、口話（話し手の唇や口の動きから話の内容を読み取り、自分の話したいことを声に出して話す）のコミュニケーションを取ることが多いです。

企業では、音声を文字に変えるソフトを使ったり、長い会話のあとに休憩をとったりするなど、仕事のしやすさに配慮した工夫が行われています。また、話すときはゆっくり口を開けて話したり、ジェスチャーを交えたりと、本人が理解しやすい方法を一緒に考えて実践しています。

こうした配慮は、「してもらう」だけでなく、本人が自分の困りごとや希望を伝えることから始まります。

「こういうときに困る」「こうしてもらえると助かる」といった思いを少しずつ言葉にできるようになることが、社会の中で自分らしく働く力につながります。

合理的配慮は、待っているだけでは得られません。本人・家庭・学校が協力し、本人の意思を尊重しながら考えていくことで、その人に合った支援が生まれていきます。日々の生活の中で「どんなときに困った?」「どうしたらうまくいくかな?」と話し合うことが、将来の大きな力になります。